

公正・透明で効率の高いプロセスへ

透明性の確保と信頼性の向上

国民に見えるプロジェクトマネジメント

第13回基本政策部会

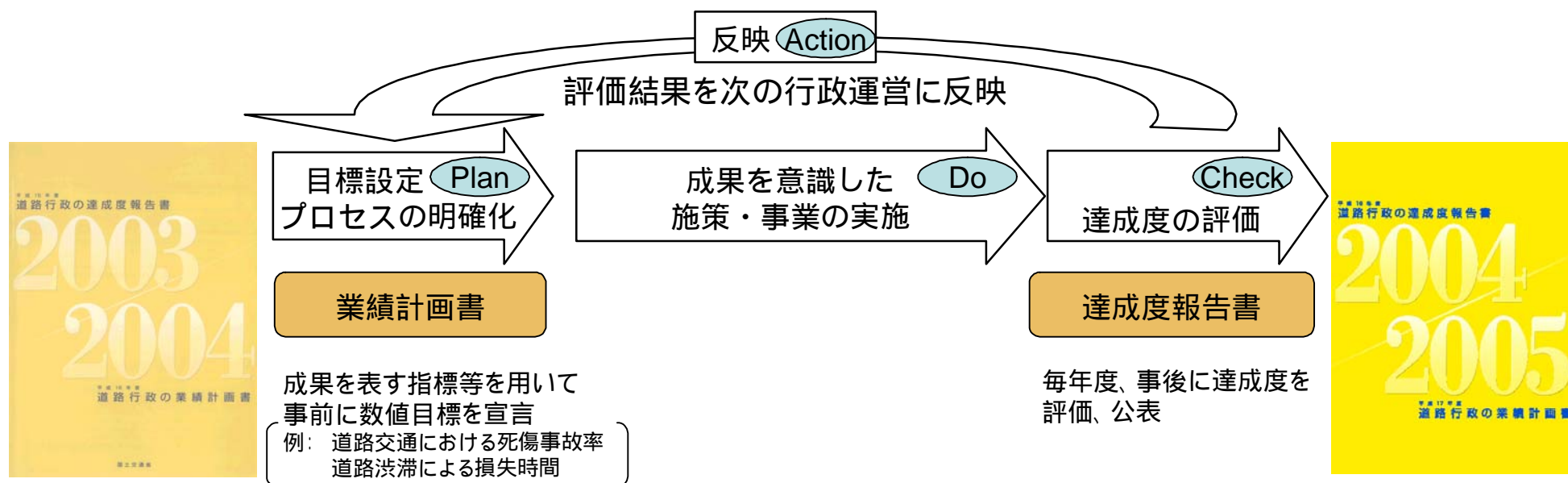
平成18年1月26日

国土交通省 道路局

これまでの道路行政の取組み〔1 / 2〕

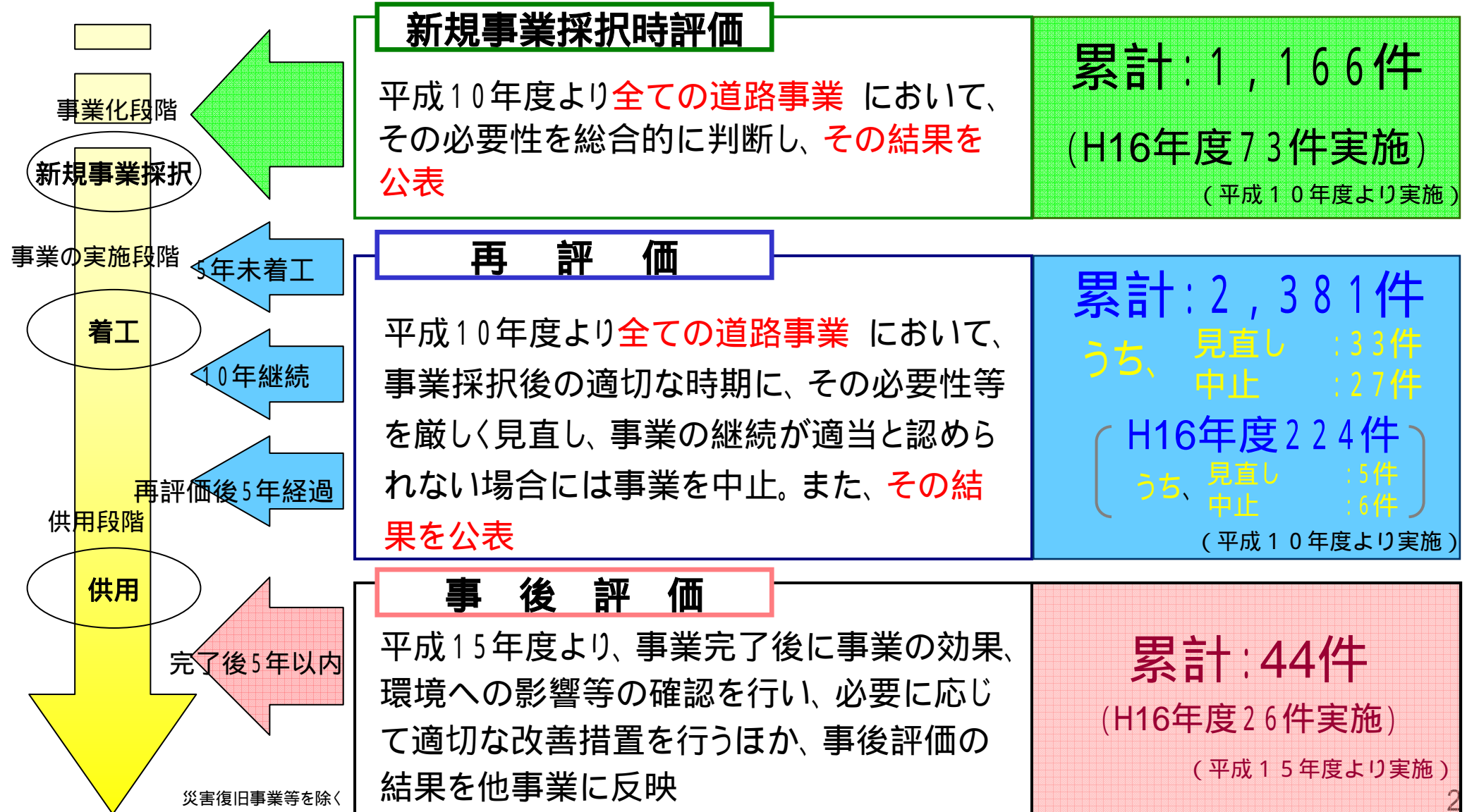
より効果的・効率的かつ透明性の高い道路事業に転換するため、成果志向の道路行政マネジメントを平成15年度から実施

- 平成15年度
 - ・ 全国の渋滞時間を1年間で約3%削減する等、毎年度の数値目標を設定し、事後に達成度を評価する「成果志向」の行政運営を推進。
- 平成16年度
 - ・ 初の達成度報告書を作成し、1年前に宣言した目標の「達成度」を確認。達成度報告で得られた評価と知見を、次の施策や事業へ反映。
- 平成17年度
 - ・ 6月に達成度報告書・業績計画書を公表。
 - ・ 道路行政マネジメントの取組みを確実に実践していくために、地域への浸透・定着を図る



これまでの道路行政の取組み [2 / 2]

道路事業の効率性の一層の向上を図るため、事業の必要性を厳しく見直して、効果の高い事業に集中投資



国民に見えるプロジェクトマネジメントが目指すもの

道路事業の課題(国民からの批判)

1. 道路整備の必要性、効果が理解できない。
2. いつ道路が供用されるのかがわからない。
3. コスト意識が低いのではないか。

道路整備の必要性と効果を国民に説明することにより、道路事業の透明性を向上

供用目標の公表、道路投資の選択と集中及び事業進捗管理の徹底により、道路事業の透明性と信頼性を向上

国民に見える
プロジェクトマネジメント

中期計画ビジョン

5年以内目標宣言
プロジェクト

中期計画ビジョンの内容

目的

概ね10年で完成すべき事業について、事業の必要性と効果を明確化することによって道路事業の透明性を向上させる

概要

- ・概ね10年で達成すべき政策目標を記載
- ・概ね10年で達成すべき政策目標の妥当性を説明するため、背景、必要性、整備効果を記載
- ・概ね10年で整備すべき事業の残事業費を記載
- ・個別箇所の必要性が検証できるデータを含め、個別箇所を記載

イメージ

中期計画ビジョンのイメージ(地方整備局ブロック)

概ね10年で整備すべき事業の残事業費は、約 兆円

高規格幹線道路ネットワークの整備

・高規格幹線道路ネットワークを概成

約 億円

高規格幹線道路の機能を高めるために必要なアクセス道路の整備

・高規格幹線道路網の機能を高めるために必要なアクセス道路を整備(ICから周辺主要都市へのアクセス、拠点的な空港・港湾へのアクセス等)

約 億円

渋滞対策

ピーク時における渋滞や、年間を通じて混雑する箇所の解消・緩和に資する交通円滑化対策を実施

約 億円

防災・震災対策

阪神・淡路大震災クラス地震発生等の災害発生時においても、緊急輸送道路約9万kmの機能を確保するために必要な対策を実施

約 億円

環境対策

・京都議定書目標達成計画を達成するため、道路交通によるCO₂排出量を削減
 ・大気質・騒音の環境基準を上回っている地域の沿道環境を改善
 ・地震時の避難路や輸送路、世界に誇れる日本の観光エリア等、特に必要な箇所において無電柱化を実施

約 億円

交通安全対策

・政府目標である交通事故死者数5,000人以下を達成するために必要な対策を実施
 ・少子高齢化社会の到来を受け、安全で快適な生活環境の構築に必要な対策を実施

約 億円

更新時代への対応

道路資産を10年後も現状と同等の機能を維持できるよう事業を実施

約 億円

日常生活に必要な移動を確保する、地域の道路ネットワークの整備

病院など地域の拠点へのアクセスを含めて、日常生活に必要な移動を確保するため、地域の必要最低限の道路ネットワークを構築

約 億円

スケジュール

平成18年3月末
 中期計画ビジョン素案公表
 平成18年4月～
 国民からの意見を募集

5年以内目標宣言プロジェクトの内容

目的

投資の選択と集中及び事業進捗管理による供用目標等の公表・実現と整備効果の早期発現を図り、事業の透明性と信頼性を向上させる

概要

進捗の環境が整った事業について、個別事業箇所・事業区間・延長等の事業内容、個別事業毎の供用目標・事業効果・執行目標等を公表

九州地方整備局の例

路線・事業箇所名	事業区間	延長	平成16～20年度の供用目標	事業効果	平成16年度の執行目標	担当事務所
改築事業						
国道3号 黒崎バイパス	北九州市八幡東区 ～同市八幡西区	5.8km	H19年度 舟町ランプ～陣原ランプ 2.9km 2/4車線供用	・黒崎地区都市再生の支援 ・主要渋滞ポイント「筒井交差点」の交通渋滞緩和 ・時間短縮効果 約98万人時間/年	用地取得完了(H19供用区間) 本線橋下部工事着手	北九州国道
国道3号 岡垣バイパス	遠賀郡岡垣町 ～宗像市	5.3km	H16年度 岡垣町山田～山田ランプ 1.3km 4/4車線供用(2/4→4/4) H19年度 山田ランプ～野間ランプ 2.0km	・福岡市と北九州市との連携強化 ・交通円滑化 ・時間短縮効果 約22万人時間/年	1.3km区間4/4車線供用	北九州国道
国道3号 東橋原拡幅	久留米市	0.9km	H17年度 久留米市東橋原町～同市通町 0.9km 4/4車線供用 (4車線拡幅、全線供用)	・主要渋滞ポイント「東橋原交差点」の交通渋滞緩和 ・沿道環境の改善 ・時間短縮効果 約38万人時間/年	用地取得率92% 筒川園渠工事着手	福岡国道
国道10号 行橋バイパス	京都郡苅田町 ～行橋市	5.4km	H17年度 苅田町二先山交差点 ～新長狭川橋 0.7km 4/4車線供用(2/4→4/4)	・「二先山交差点」の交通渋滞緩和 ・新北九州空港へのアクセス強化 ・時間短縮効果 約25万人時間/年	二先山交差点付近改良工事完成	北九州国道

スケジュール

平成18年3月末

5年以内目標宣言プロジェクト概要版公表

平成18年5月末

5年以内目標宣言プロジェクト公表

ちやくちやくプロジェクトの取組み (九州地方整備局の例)

ちやくプロ: 利用者に見える道づくりを目指し、供用目標・効果の明示と進捗管理 H15.8~

事業の効率化: 規格・構造の見直し、スピードアップの工夫
対象事業選定: 投資効果が高い、進捗の環境が整っている、
選択と集中で5年以内に供用可能



対象事業毎に: 供用目標、年度毎の進捗目標を設定・公表、
予算・体制の確保、収用制度の適切な活用



「有言実行の道づくり」

一般への情報提供充実

- 現場での明確な情報発信
- 説明責任の向上

プロジェクト管理の強化

- 関係者の意識統一
- コスト管理とスケジュール管理

一般への情報提供充実

現場看板で供用目標や事業の効果をお知らせ



ホームページで事業の概要や進捗状況を報告

九州地方整備局トップ > 道路部トップ

ちやく²プロジェクト～九州の5年で見える道づくり～

～選択と集中、無駄なくスピーディにサービス提供～

アンケート実施中です!

HOME | 最新情報 | ちやくプロとは? | 目標 (2005) | 箇所別目標一覧 | 効果 | PJ事例 | その他施策

ちやくプロとは?

利用者に見える道づくりを目指し、道路の供用目標ともたらされる効果の明示、そして徹底したプロジェクトの管理を進めます。

“ちやくプロ”ニュースレター Vol.4

>> バックナンバーへ

各県の取り組み目標一覧

右の地図の県名をクリックすると各県の取り組み目標一覧をご覧頂けます。

箇所別のちやくプロ状況はこちらをご覧ください。

最新情報

過去の最新情報一覧はこちら

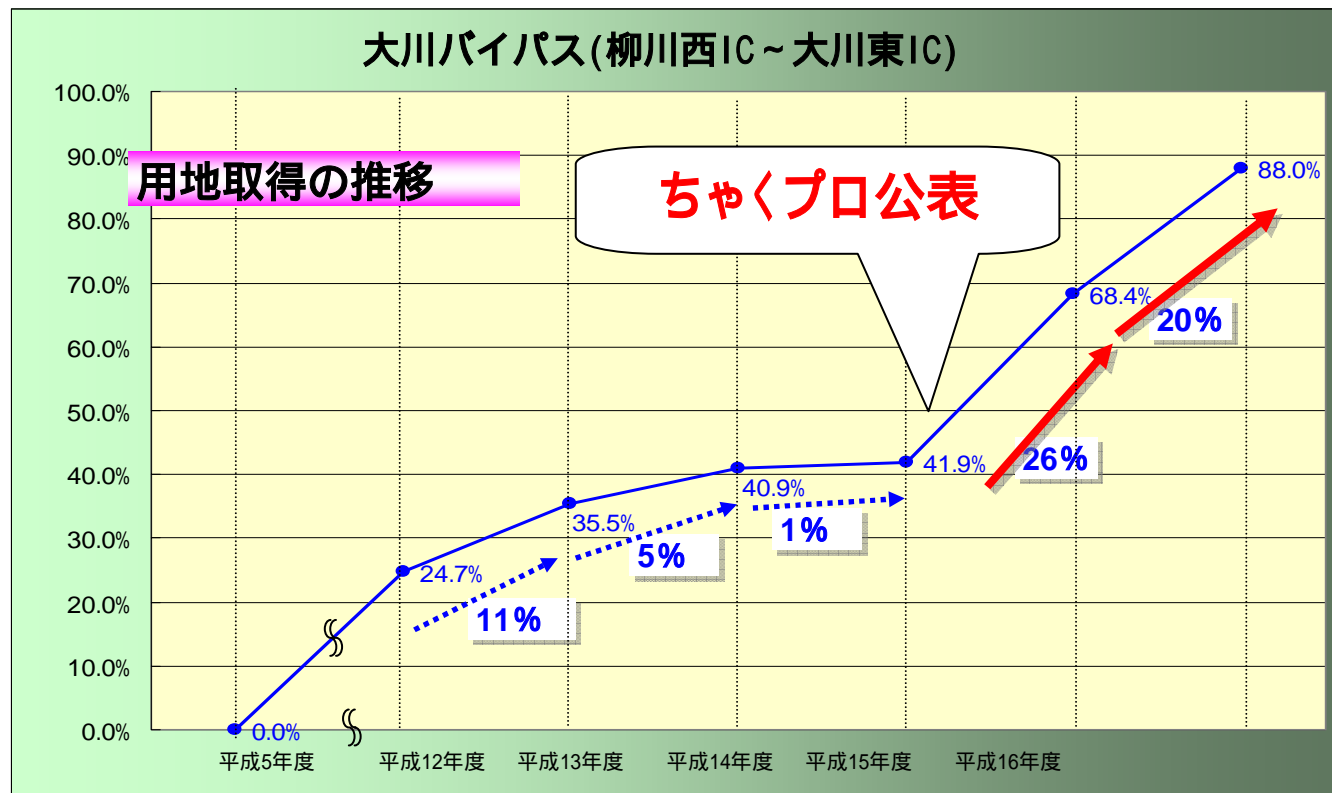
- '05年7月8日 九州の5年で見える道づくりちやく²プロジェクト更新 **new!**
- '05年2月28日 [南九州西回り自動車道日奈久IC～田浦IC間が供用開始!](#)
- '05年2月25日 [FMやつしる事務所長出演!](#)
- '05年2月24日 [一般国道10号花見改良の部分共用開始!](#)
- '05年2月24日 [べつたいウォーク2005がありました。](#)
- '05年2月21日 [国道57号熊本東バイパス6車線化部分開通について](#)
- '05年1月25日 [奈久芦北道路のページを更新しました。](#)
- '04年11月11日 [平成16年12月18日「犬飼バイパス開通」!!!](#)
- '04年9月29日 [有明沿岸道路\(矢部川橋\)の着工式について](#)
- '04年8月5日 [別大国道\(高崎山付近\)の渋滞対策の実施について](#)

<http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/tyaku2/index.html>

目標公表による地域の協力 (1 / 2)

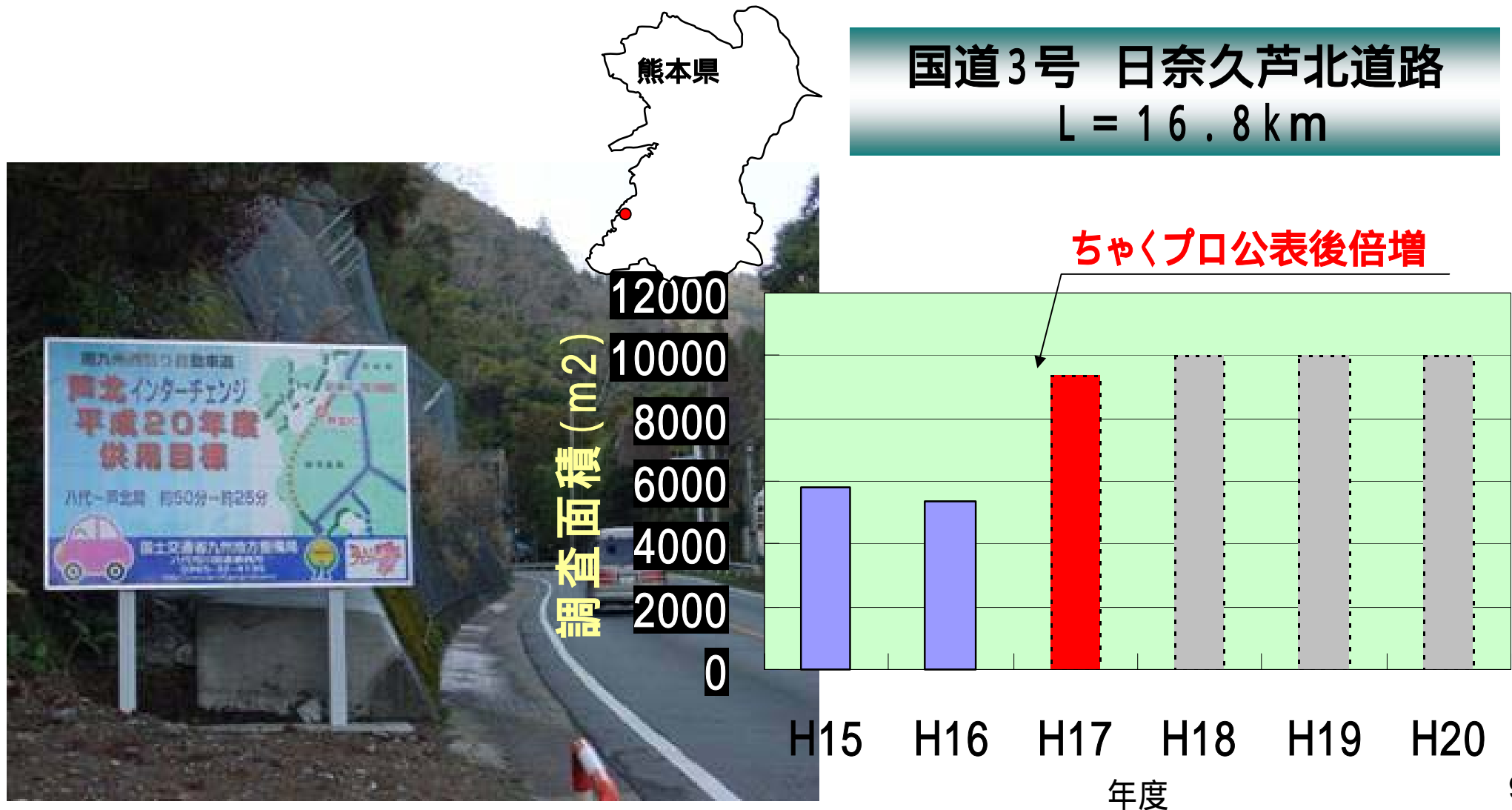
自治体の協力で地域の合意が早期に得られ、用地取得が大幅に進展

- ・用地協議に自治体職員が参画。用地取得が大幅に推進
(大川バイパス(柳川西IC～大川東IC)においては 2年で41.9% 88.0%)
- ・大川市ではH16年度より国県道推進室を設置



目標公表による地域の協力〔2 / 2〕

H20年度のちやくプロ供用目標公表により、
自治体等が目標を意識し、埋蔵文化財調査を大幅に推進



国道3号 日奈久芦北道路
L = 16.8 km

ちやくプロ公表後倍増

調査面積 (m²)

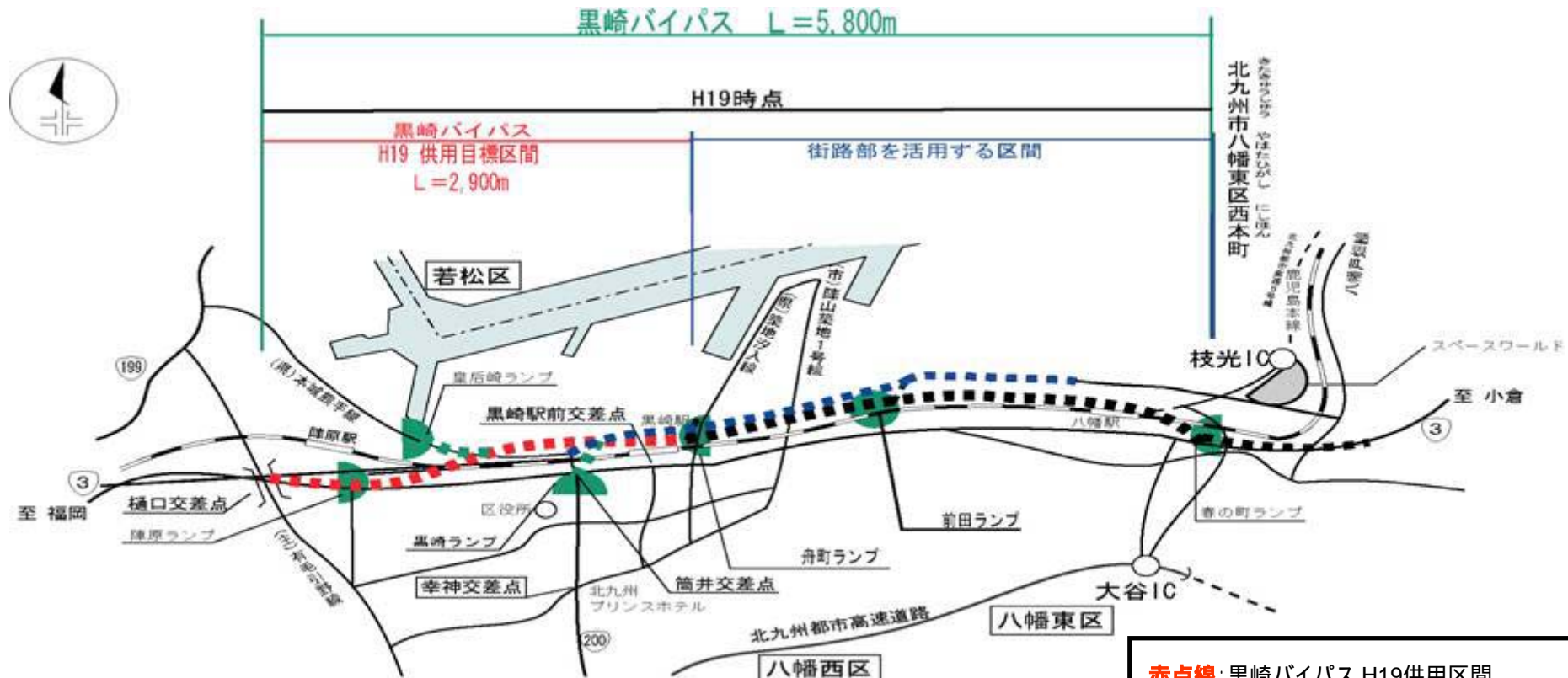
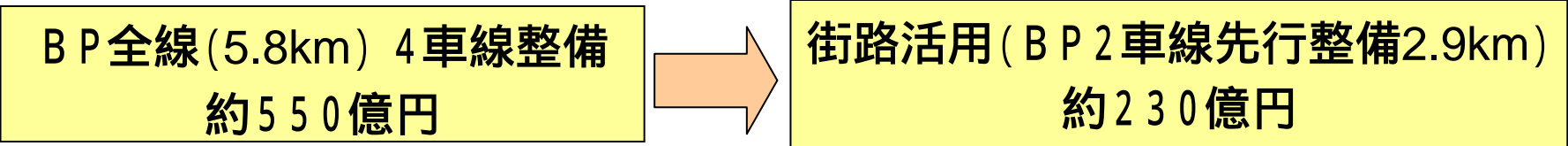
12000
10000
8000
6000
4000
2000
0

H15 H16 H17 H18 H19 H20

年度

早期事業効果発現のための工夫

少ない初期投資で、早期にネットワークを形成 (H15以降残事業費)



赤点線: 黒崎バイパス H19供用区間
青点線: 街路部を活用する区間
黒点線: 黒崎バイパス H20以降供用区間

「ちゃく²プロジェクト」導入の効果

早期事業効果発現

事業のスピードアップで年あたりの供用延長を約1.5倍に

関係者の連携強化(目標に至るプロセスの認識)

プロジェクトチームの連携強化、関係者間の共通認識

目標公表による地域の協力

供用目標に対しての自治体の支援体制の確保等

目標達成のためのコスト縮減

「設計の総点検」の実施で、約62%の事業でコスト縮減案を適用

担当職員の意識(明確な目標)

目標認識と効果・工程を踏まえた予算管理の実施等